

「ユース非核リーダー基金」第2期生の皆様、

皆様がこのプログラムに選出されたことにお祝い申し上げますとともに、長崎と広島への訪問を開始されるに当たり、心からの歓迎の意を表します。また、このプログラムの開催に向けた関係者の皆様の献身と御尽力に心から感謝申し上げます。

広島と長崎で青年期を過ごした者として、皆様が原子爆弾による壊滅的な被害を経験した両市への訪問を始められるに当たり、御挨拶できることを大変光栄に思います。

私が卒業した広島の高校には、約81年前に原子爆弾が投下された際に命を落とした344人の生徒を追悼する慰霊碑が立っています。私は、恩師たちが核兵器によって引き起こされた甚大な苦しみと犠牲について語り、被爆を経験した人々の物語や体験を私の世代に伝えてくださったことを鮮明に覚えています。これらの記憶により私は、このような悲劇が二度と繰り返されないようにするためには、若者にこれらの現実について教育することが最初にして最も重要な一歩であると確信しました。

先月閉幕した第11回NPT運用検討会議において、日本は軍縮・不拡散教育に関する共同声明を発出しました。この声明は、将来の軍縮・不拡散の枠組みを主導し、支えるのは若者であると強調し、過去最多となる116か国の支持を得ました。

唯一の戦争被爆国として、日本は、核兵器のない世界の実現に向けた現実的かつ実践的な取組を進めながら、被爆の実相に対するより深い理解を促進することに、引き続き強くコミットしています。

ますます厳しさを増す国際的な安全保障環境の中、核兵器のない世界に向けた道のりは依然として困難ではありますが、日本はこの目標の実現に向けた努力を決して止めません。この「ユース非核リーダー基金」は、人類共通の願いに対する日本の揺るぎないコミットメントの証しです。

長崎と広島での滞在中、皆様には、両市の歴史から学び、被爆者の方々、すなわち原子爆弾の生存者の方々の証言に耳を傾け、彼らが次世代に伝えたいと願う教訓について深く考えていただければと思います。これらの経験を心に刻み、他の人々と共有されることを願っています。

核軍縮の推進、そして核兵器のない世界の実現に向けて積極的な役割を果たす皆様が、それぞれの知見を世界各地のコミュニティへ届け、国境や世代を超えた橋渡し役を担ってくださることを期待しております。

最後に、今回の訪日が、皆様にとって意義深く、実り多く、そして示唆に富んだものとなることを願って、私からの御挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。